広

わじろ地域大学

子どもたちに地域や地元愛を育む事業

毎年好評の「わじろ地域大学」を今年も開講します！

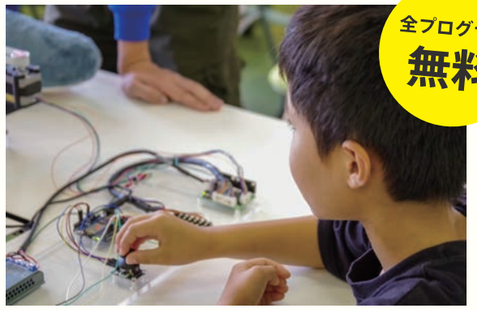
地域で取り組んでいる最先端技術から伝統文化まで幅広く学ぶことができる4つのプログラムをご用意しました。地域の方が先生になり、親子で一緒に学ぶ全4回の講座です。**皆さんが住んでいるこのわじろ周辺の地域でしか体験できない特別なプログラムを集めました。**

初回は、和白干潟の観察と、映える写真の撮り方を教わります。終了後にみんなでかき氷を食べる企画付きです。他にも、初めての方でも簡単にできるHIPHOPダンスや意外と知らない親子で学べるお金の話、ロボットやドローンの操作やレーザー加工体験などを企画中です！親子で一緒に楽しく学びながら体験することができるプログラムです。

6月13日(土)から申込みできます。興味がある方はぜひお問い合わせください。

《「わじろ地域大学2026」詳細》
【日時・内容】
《1限目》7月 26日 (日) … のこそう！和白干潟！
《2限目》8月　2日 (日) … おどろう！ HIPHOPダンス！
《3限目》8月　9日 (日) … まなぼう！はじめてのお金の話！
《4限目》8月 23日 (日) … うごかそう！ロボット体験！
【参加費】無料
【問合せ・お申込み】☎092-608-8480

全プログラム 無料



▲昨年のロボット操作体験の様子

▲HIPHOPダンスでは音楽に合わせて先生が丁寧に教える

接

市民ギャラリー

作品の発表の場を提供

福岡市に在住または在勤している方なら、どなたでも気軽に利用できる「市民ギャラリー」。地域で活動しているサークルや団体はもちろん、個人の方でも利用することができ、絵画や写真、イラスト、書道、手芸作品など、さまざまなジャンルの作品を展示していただけます。

「展示をしてみたいけれど、発表する場所がない」「初めてなので不安」という方でも利用しやすく、初心者の方のチャレンジも歓迎しています。

展示スペースは1回につき3週間、無料で利用することができます。作品の飾り方や展示方法についても、ご相談に合わせて対応しているため、それぞれの作品や活動に合わせた展示が可能です。

これまでにも、地域で制作活動をしている方々の作品発表の場として活用され、多くの来館者との交流のきっかけにもなっています。

▲2階の会議室前に展示の様子。見学はいつでもOK

《市民ギャラリー 詳細》
【展示期間】原則として3週間　【展示費】無料
【問合せ・お申込み】☎092-608-8480
※ご利用に関しては、規約をお守りください。

コミセンわじろ
WAJIRO Regional Community Center

公式HP　facebook

〒811-0213　福岡県福岡市東区和白丘1丁目22-27
☎092-608-8480　FAX：092-608-8485
【開館時間】午前9時から午後9時まで(多目的ホールは午後10時まで)
【休館日】毎月最終月曜日(祝日のときは翌日)、及び年末年始(12/28 ～ 1/3)

より詳しい情報は、コミセンわじろ公式ホームページをご覧ください。
公式HP　**https://wajiro.info**
facebookでも、コミセンわじろの日常を発信中！
facebook　**www.facebook.com/komisenwajiro**

「残す景色」と「新しい景色」がかさなる情報誌［ワジコ］
WAJICO
53
June 2026
Summer

子どもに伝えて守り続ける 三苫海岸の魅力

Protecting the Charm of Mitoma Coast for the Future

Contents

わじろぐ　三苫海岸での植林再生活動
わじかつ　和白東レインボークラブ連合会
わじじん　齊藤 桂子さん(和白校区衛生連合会会長)
わじとぴ　わじろ地域大学
わじくみ　市民ギャラリー

記

三苫海岸での植林再生活動

子どもたちに地域の魅力である海の大切さを伝える

▲活動の前に、海との向き合い方について伝える

▲卒業記念の看板も設置された

三苫海岸の防風林を守り育てる「三苫松林再生会」の活動を取材しました。地域の自然や暮らしを守るために続けられている防風林の植樹活動や、海岸の見守り・パトロールなど、地域に根ざした取り組みについて、三苫松林再生会の堺光臣会長にお話を伺いました。

三苫海岸で防風林を守り育てる「三苫松林再生会」と三苫校区住民約70名、三苫小学校6年生77名による植樹活動が行われました。昨年は300本だった苗木が、今年は500本に増え、「スーパークロマツ」と呼ばれる、より強く育つ松を植樹しています。松食い虫の被害で枯れた松を伐採し、新たな苗木を植えることで、防風林を守り育てる取り組みが続けられています。防風林は、強風や塩害、飛砂から地域の暮らしを守る大切な役割も担っており、海岸沿いの景色や自然環境を未来へ残していくことにもつながっています。

この植樹活動は、約10年前に三苫小学校の6年生が取り組んでいた活動を、今年から再び復活させたものです。**子どもたちに地域への愛着を持ってほしいという思いが込められており、「将来また三苫海岸を訪れたときに、自分が植えた松だと次の世代に伝えてほしい」と語られていました。**自分たちの手で植えた松が成長し、未来の海岸を守っていく。そんな体験を通して、ふるさとへの思いを育んでほしいという願いも込められています。

植樹当日は、地域の方々に教わりながら、子どもたちが一本一本丁寧に苗木を植えていく姿が見られました。普段何気なく見ている海岸にも、多くの人たちの活動や思いが込められていることを知る機会にもなっていたようです。地域の自然を守る活動に、自分たちも関わっているという実感を持つことは、子どもたちにとって大きな経験になっているように感じました。

三苫松林再生会では、防風林の整備だけでなく、海岸の見守りやパトロール活動も行っています。岩場と砂浜の間など危険箇所への注意喚起や、地域で声を掛け合いながら見守ることも大切な活動の一つです。海岸の安全を守るためには、日頃から地域のつながりを作っていくことも欠かせないと感じました。

また、昨年の三苫海岸での水難事故を受け、「海は危険だから近づかない」ではなく、“海との向き合い方”を子どもたちに伝えていきたいという思いも語られました。危険なことをきちんと知りながら、海の楽しさや自然の豊かさも感じてほしい。海が近くにあることは、三苫校区の大きな魅力の一つでもあります。植えられた一本一本の松には、地域の自然や暮らしを未来へつないでいきたいという願いが込められていました。

《三苫松林再生会の活動について》
【問合せ】三苫公民館（☎092-606-4511）

▲地域の方に植え方を教えてもらいながら、それぞれグループに分かれて松の苗を植える

▲松の苗は約30～50cmほどで、1本ずつ丁寧に植えていく

活

和白東レインボークラブ連合会

長年地域に愛されてきた元気になれる居場所

シニア世代の地域活動が注目されています。今回は、校区内の7つの団体が連携し、活動している「和白東レインボークラブ連合会」の田中会長にお話を伺いました。

Q. どのような活動ですか？

この団体は、47年前に発足しました。和白東校区にある7つの老人クラブが連合した組織で、7つの団体が集まっていることからクラブ名に「レインボー」がついています。60歳以上であれば誰でも入会でき、主な活動として、和白東音頭やフォークダンスを楽しむ「いきいき体操」や、小学1年生を対象にこま回しやお手玉などの昔遊びを教える「ふれあいランド」があります。

他にも、「グラウンドゴルフ」や「ダーツ」、さらには9月20日の「社会奉仕の日」に合わせた大神神社の清掃など、多岐にわたる活動を仲間と共に楽しんでいます。

▲しゃもじを手に取りどんたくの練習

Q. この活動ならではの魅力は？

「健康づくり・生きがいづくり・友達づくり」です。奉仕活動を通じて地域に貢献することも、日々の活力に繋がっています。また、子どもたちとの世代を超えた交流も印象的です。地域の中で子どもたちと顔見知りになり、温かく見守り合える関係性は、この活動の喜びです。

Q. 今後の活動を教えてください

現在の円滑な運営をしっかりと継続していくことです。全国的に老人クラブの後継者不足が課題となっており、私どもも例外ではありません。役員間の連絡にLINEを活用するなど新しい方法も取り入れながら迅速な情報共有を行っています。協力してくださる皆さんに感謝し、これからも地域に根ざした活動を続けていきたいです。

▲みんなで輪になりフォークダンス

齊藤 桂子さん（和白校区衛生連合会会長）

地域活動の積み重ねが信頼へとつながる

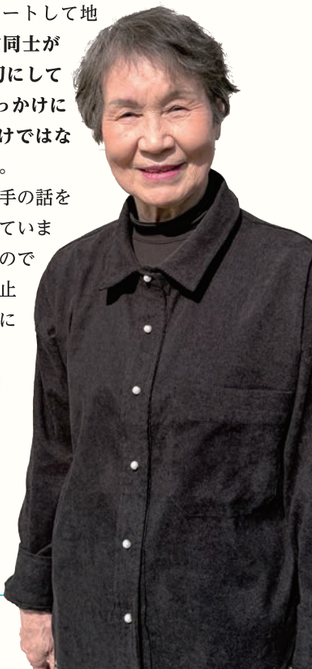
地域には、長年にわたり地域を支え続けている方々がいます。今回お話を伺ったのは、和白校区で民生委員、自治協議会などで活動され、現在東区の衛生連合会の会長をされている齊藤桂子さん。活動の内容や地域活動に対する思いをお伺いしました。

医療機器関係の会社で働いていた頃は、地域活動に深く関わるとは思っていませんでした。子育てで一度仕事を離れ、その後、福岡支社の立ち上げをきっかけに復職しましたが、59歳で退職した頃に町内会から声をかけてもらったことが、地域活動に関わるきっかけになりました。

民生委員は平成13年から16年間続け、町内会長も経験しました。役職は自分から望むというより、人から託されるものだと考えるようになりました。引き受けた以上は、しっかり取り組みたいと思っています。不思議と「大変」という気持ちよりも、「楽しい」という気持ちの方が強かったように思います。

▲和白校区の文化祭では、参加者と健康体操を行った

現在は衛生連合会の活動として、健康講座やウォーキング、献血活動などに取り組んでいます。ウォーキングでは、公民館からスタートして地域を歩きながら、**参加した方同士が自然と会話できる時間を大切にしています。地域のことを知るきっかけにもなりますし、健康づくりだけではない良さがある**と感じています。

人と関わる中では、まず相手の話をしっかり聴くことを大切にしています。自分の考えを先に伝えるのではなく、相手の気持ちを受け止めながら、一緒に考えるようにしています。

町内会長を経験した2年間は、自分にとって大きな財産になりました。地域には、いろいろな立場や考え方の人がいますが、安心して暮らせる地域をみんなで支えていけたらと思っています。